



令和7年度 幼児教育研修（中堅研修）

「絵本が育む保護者との絆」

日時：令和7年10月28日（火）15：00～17：00

会場：足立区生涯学習センター

講師：白鷗大学 教育学部 教授 浅木 尚実 氏



- 言葉の力がつく
- 国語力に差がつく
- 社会的スキルにつながる（非認知能力）

SNS時代の現代。必要な保育は、絵本による人育てが大事になっている。特に乳幼児期は、人との深い関わりが最も大切である。身近な大人と愛着を形成することによって、生涯にわたって安定した心をベースとして、意欲的でクリエイティブな挑戦ができる。すべてを発信できるのが… **絵本の力** である。

絵本の力

絵本の力とは 絵本で育まれる力

- ①**主体性**…自己決定を促す・問題解決を学ぶ・コミュニケーション能力の向上・独立心や責任感が養われる
- ②**共感力：感情の認識と他者理解**…他者との共存・喜怒哀楽・思いやりの心・感情のコントロール（自制心）
- ③**想像力と創造力**…自由な発想・共感と理解（他者の視点を体験）・感情のコントロール・遊びへの発展
- ④**ことばの力**…リズム・オノマトペ（聴く力・語彙力・文章力・表現力）・ページをめくるドラマ・ことばを聴き、味わう
- ⑤**ユーモア**…集中力・柔軟な思考
- ⑥**論理観と価値観：昔話**…道徳観・善悪観の育成・人格形成の向上・創造力・日本の文化理解
- ⑦**調査力・論理的思考・分析力の向上**…自分で調べる（調査力）・知識の取得、理解（理解力・好奇心）・考える（論理的思考・分析力・プレゼン力科学）ごっこ遊び（仕事体験）

絵本・子ども・おとなの三角構造

● 読み聞かせとは ●

- ①おとなが文字を読み、子どもは絵を読む
- ②耳で聴く音声文学
- ③絵本は絵と文とページをめくるドラマで構成されている



● 絵本とは ●

- ①おとなが作り、編集し、販売する
- ②選ぶのはおとな
- ③おとなの視点と子どもの視点

重要！ 幼児期の絵本の流れ



● 乳児期（0歳後半～1歳・2歳） ●

身近な大人と愛着形成の絆を結ぶ時期



あかちゃん絵本・ことばの絵本・モノの絵本
行って帰る物語絵本・ちいさなかがくのとも

● 2歳～3歳 ●

ものの名前を覚えたり、基本的な生活習慣を身につける時期



物語絵本・社会科学の絵本・ことば遊び絵本

● 4、5歳 ●

仲間との遊びを楽しむ
非認知能力やクリエイティブに遊び、人生の基礎をつくる時期



聴くことは脳を鍛える



● 聴くことはコミュニケーションの基礎 ●

聞くプロセス

刺激→受容→注意の集中→意味の割り当て→応答
スキーマ：何かについて脳に蓄えられているひとまとまりの情報
（「絵本力」著：浅木尚実 P86～87）

● 幼児期に絵本やお話を聞くことの経験 ●

→将来の識字能力との関連が大きい

（メリアン・ウルフ『プルーストといか』インターシフト）
（「絵本力」著：浅木尚実 P88）

読み聞かせは重要である

その子がどの絵本にはまるのかは、読んであげることでわかる。聞くことが楽しい、自分から面白いと目覚めた時、読書が好きになる。それは大人が面白いと思った本でないと伝わらない。だから、大人も絵本を楽しみ、好きになることが大切である。



絵本で拓く共感し、考え、創る力

主体性を育む

- 読書参加型
- 自己選択を促す
自分のシチュエーションを選んでいく。
(自分で選ぶ、決める経験)
- 絵本『ねえ、どれがいい?』
著者: ジョン・バーニンガム
まつかわ まゆみ訳
出版社: 評論社
↓
意思決定の向上
自分で決めたことは、子どもでも責任を取ろうとする。

- 問題解決の仕方を学ぶ
→ 失敗から学ぶ
- 絵本『こんとあき』
著者: 林明子
出版社: 福音館書店
- 絵本『ぼくのかえりみち』
著者: ひがしちから
出版社: BL出版
- 絵本『がまんのケーキ』
著者: かがくいひろし
出版社: 教育画劇

調査力・論理的思考・分析力の向上

- 自分で調べる力 → 調査力
- 知識の取得・理解 → 理解力・好奇心
- 考える → 論理的思考、分析力、プレゼン力科学
- ごっこ遊びは仕事体験

- 絵本『みつけたよ!だんごむし』
監修: 唐沢重考
出版社: ひさかたチャイルド
→ いのちがあることがわかった。
- 絵本『みずとはなんじゃ?』
著者: かこさとし
出版社: 小峰書店
→ 子どもの気付き、もっと知りたい。



想像力・創造力を育む

- 自由な発想が花開く
- 共感と理解: 他者の視点を体験
- 感情のコントロールを学ぶ
- 遊びへの発展



- 絵本『ねずみくんのチョッキ』
著者: なかえよしを
出版社: ポプラ社
- 絵本『エルマーの冒険』
著者: ルース・スタイルス・ガネット
わたなべ しげお訳
出版社: 福音館書店

共感力: 感情の認識と他者理解

- 他者の視点で体験 → 他者との共存
- 感情表現を学ぶ → 喜怒哀楽・思いやりの心
- 感情のコントロール → 自制心

- 他者理解
絵本『はじめてのおつかい』
著者: 林明子
出版社: 福音館書店
→ 牛乳を買うことをあきらめない。
達成して自信をもつ。(非認知能力)
お母さんが愛着形成をもっていることがよくわかる絵本。
- 自己選択を促す
絵本『ないた』
著者: なかがわひろたか
出版社: 金の星社

ことばの力

- 絵本『ぐりとぐら』
著者: なかがわりえこ
出版社: 福音館書店
作者の選び抜かれた表現になっている。
↓
絵本から身に付けられる非認知能力
(大きな卵を運ぶための試行錯誤)
自己肯定感のモデルの絵本である
- 絵本『かえるがみえる』
著者: まつおか きょうこ
出版社: こぐま社
- 絵本『よかったね ネットくん』
著者: シャーリップ
やぎた よしこ訳
出版社: 偕成社

ユーモア: 柔軟な思考

- 絵本『つきよのかいじゅう』
著者: 長新太
出版社: 校成出版
- 絵本『あおい目こねこ』
著者: エゴン・マチーセン
せたていじ訳
出版社: 福音館書店
- 絵本『こしぬけけウィリー』
著者: アンソニー・ブラウン
久山太市訳
出版社: 評論社

論理観と道徳観

- 道徳観・善悪の判断
絵本『おおかみと七ひきのこやぎ』
著者: ホフマン絵
出版社: 福音館書店
→ おおかみが入ってくる場面。
2歳児は園庭に逃げる。子どもたちにとって現実の世界で起きていることになっている。
- 絵本『したきりすずめ』
著者: 石井桃子
出版社: 福音館書店

研修生の報告書より

★スマホ育児に対する対策で、絵本が非常に有効であることを学んだ。絵本に対しては言葉や想像力の発達のイメージが強かったが、「話を聞く力」「共感する力」「倫理観」など様々な面で子どもの発達に役立っているエッセンスがたくさん詰まっていることを知り、今後の保育や保護者支援で活用していきたいと思った。

★絵本の研修、という一つのテーマをじっくりと学ぶ貴重な機会となった。デジタルの時代に保育の仕事をする意味、自分自身の子育てについて考えさせられた。絵本から得られるものの多さ、乳幼児期に絵本の読み聞かせをする意味を改めて学んだ。クラスの子どもにどんな本を読み聞かせたいか、自分はどうなふうにかこの絵本を捉えているのか、丁寧に考えながら選定していきたいと思う。